

## 夜間定時制の思い出

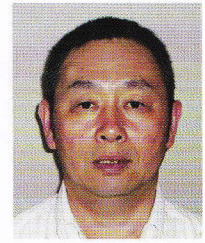
昭和58年定時制夜間普通科卒 山崎 恒夫

昼間、仕事が終わってから校舎へと向かった日々が西高での4年間でした。

高卒の資格を取るための4年間はたくさんの思い出ばかり。学校に着くと楽しみの給食がありました。とてもおいしかったです。あの当時の給食のおばちゃんたちに、心からお礼が言いたい。本当にありがとうございました。

生徒会長や自治連の会長までもさせていただき、光栄に思っています。また部活動では、バレーボールを通じて多くの友人に恵まれました。さらに定時制のインターハイに出場することができましたことは、私の中では一生の思い出となっています。

鹿児島県立鹿児島西高等学校が閉校になることについては、納得がいきません。こんなにすばらしい学校なのに、もったいないと思います。ぜひ校舎の後利用を含めて鹿児島西高等学校を守っていただきたいと心から思います。



学生食堂の様子



昭和55年・56年 全国大会出場（代々木体育館）

## 知る喜びを得る事は、人生の喜びを得る事

平成5年通信制普通科卒 新原 誠一郎

まずは閉校記念誌への執筆の機会を頂きました事、心より感謝申し上げます。

私は高校進学後2年3学期まで進級し、訳あって本校へ編入いたしました。当時勉学よりも交友や仕事を優先していたため、日曜日を割いて学校へ通う事が継続出来なくなり、編入2年後に退学意思確認の通知が自宅へ届いたのを最近よく思い出します。しかし幸いにもこの時点で周囲の協力から准看護学校へ進学する事が出来た上に、将来の進学に向けて高校卒業の必要性を認識した時期でもあった為、この通知に対して勉学の意思有り（誠に勝手ながら・・・）と意思表示したように記憶しています。その後、先生方の丁寧なご指導と励ましにより、准看護学校を卒業すると同時に本校も卒業する事が出来ました。振り返ると16歳で高校へ進学し、22歳で西高校を卒業した私は、勉強嫌いにもかかわらず、誰よりも長く学舎へ通った事を考えると、今でも笑いがこみ上げて来ます。

その後は看護の道から診療放射線技師へ進路を変更し、現在は放射線によるがん治療を行っています。もちろん国家資格取得までには多くの時間を必要としましたが、本校で知ることの喜びを教えて頂いたお陰で、挫折することなく今日まで歩んでくる事が出来ました。知識を詰め込む授業ではなく、知識を得る事に喜びを感じさせてくれる授業を頂いたおかげで、現在も専門の分野で知識や技能向上に励んでいるところです。

在学中励ましのお言葉を掛けて下さいました先生方や、関係者の皆様、同年代であった同級生の皆様、干支が二回り以上離れた同級生の皆様や先輩方、老朽化した校舎と体育館そして家族に、今こうして生きている事をお陰様お陰様と感謝致します。

「知る喜びを得る事は、人生の喜びを得る事」本校で培った知識です。まずは、現在小学校に通う二人の娘に知る喜びを教えたいと思います。





## 閉校によせて

### 家族の思い出が詰まった学校

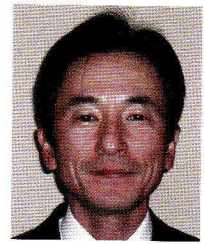
昭和55年全日制商業科卒 宮本 弘

西高を卒業して三十余年、閉校のことを聞き、色々な思い出が蘇ってまいります。在学当時は、全日制課程が出来たばかりであり、男子生徒も多く、クラスマッチではソフトボールやバレーボールなどの種目で競い合ったことが印象に残っております。

卒業後数年経ち、同窓会幹事から役員を引き受けることとなり、同窓会の立場から、毎年卒業生を見送り、また在校生を見守ってまいりました。

私事ではありますが、西高同級生を妻とし、また、息子も西高を選び後輩となりました。さらには息子も西高同級生と家族となり、二世代で西高校の卒業生として縁のある思い出の詰まった学校となりました。「孫が西高校ならば三世代だね」などと会話する場もありましたが、閉校と聞き、その夢も叶わぬこととなってしまいました。

学校が無くなることを現実と捉え、同窓会は今後も運営活動してまいります。毎年の総会は、先生方に協力いただき、開催してまいりましたが、今後は卒業生のみで運営をしていかなければなりません。不安もありますが、西高卒業生という誇りを持ち、同窓会を盛り上げてまいります。



### 西高校3年間の思い出

昭和56年全日制商業科卒 末廣 良久

思い出せばはるか昔の昭和53年4月、西高校に入学し、私の高校生活が始まりました。当時の西高は全日制が始まって3年目、周りは西高といえば定時制通信制のイメージの強い頃でした。

新入生男子は当時12名、女子は多数、あまりの男子の少なさに、これは大変なところに来てしまったと思ったのも事実です。制服も男子が少ないため中学校の学生服そのまま。購入したのは校章の200円のみ。一緒に入学した中学校同級の女子生徒の保護者から羨ましがられたのも思い出です。

中学では柔道をしていましたが、西高に柔道部があるはずもなく、体育館をふと覗いたのが運の尽き、某顧問に捕捉され何時の間にやらバスケ部員となりました。当時残っていた同期の男子生徒7名も芋蔓式にからめとられ何を言う間もなく全員バスケ部員に。しかしバスケの経験者0。何もわからない状態のためルールを覚えることから始まりました。

こんな状態で勝てるはずもなく連敗街道まっしぐら、しかし女子は快調に力をつけて、その後なんと県大会のシードにまで上がるようになりました。おかげで男子の肩身の狭いこと。実力差はしかたありませんが、つらいものがありました。しかしあの実力は我々男子が全力で練習相手を務めていたからに相違なく、感謝してほしいと思いつつ、当時はそんなことおくびにも出せませんでした。

修学旅行でも女子校と間違われ、しなくてもいい説明をする羽目になったのも今では笑い話になります。

我が学び舎は無くなってしまいますが、西高校に在籍したという誇りと思い出は一生忘れることはないと思います。



### 閉校に寄せて

平成18年全日制商業科卒 事務/全日制/平成21年～平成24年在職 野添 由乃

私が西高校を卒業して6年、そして西高校に在職して早3年の月日が流れました。

私が働き始めた時は既に再編整備により閉校が決定していたので寂しい気持ちもありましたが、残りの3年間だけでも母校で働けることをとても嬉しく思いました。

在学当時は、多くの資格取得に力を入れていました。朝と放課後の補習の日々…。しかし補習が辛くても友達と励まし合い、先生方に熱心に教えていただいたことで乗り越えられたことを今でも覚えています。母校で働き始めたとき、当時と変わらない生徒たちの資格取得への取り組みや友達との励まし合い、先生方の熱心さをとても懐かしく思いました。

そして体育祭や文化祭をはじめ、多くの行事を通して、先生方がこんなにも生徒のことを思っていること、ま





た地域住民の方々が西高校を支えてくださっていることなど、高校時代には知り得なかった多くのことに気付かされました。

母校で働くことによって、私が楽しく高校生活を送れたのも周囲の方々のおかげだと改めて感じることができました。

西高校が閉校になってしまうのは寂しいことですが、44年と続いた輝かしい歴史は私たち卒業生そして関係者の方々、地域住民の方々の心の中に一生残ることと思います。

最後になりましたが、西高校の最後に西高校の職員の一員として関わったことをとても感謝しています。また、思い出に残る楽しい高校生活を送らせてくれ、すばらしい友人・先生方に出逢わせてくれた西高校に感謝します。44年間お疲れ様でした。

## 鹿児島西高等学校へ

平成21年全日制商業科卒 後藤 あい

私にとって、鹿児島西高等学校というのは様々なことに「挑戦」させてくれる場所でした。

まず、部活動で「サッカー」、そして「生徒会」にも挑戦しました。部活動では、副キャプテンをさせていただき、生徒会では、生徒会長をさせていただき、この両立というものに挑戦しました。

次に、「バンド」です。個性の強い仲間達と夢を叶えることが出来ました。そして、西高での最後の挑戦は、「大学受験」でした。自分自身の学力では大学へ進学するというのは、難しいと分かっていたのですが、西高は私の挑戦を温かく見守り、支えてくれました。お蔭様で見事、大学へ進学することが出来ました。

様々な「挑戦」の中で、たくさんの経験をしました。楽しかったことだけではなく、辛く苦しいことや、怒りや悲しみなども沢山ありました。しかし、そのようなことを乗り越え、進み続けることが出来たのも、「鹿児島西高等学校」だったからだと強く思います。

私にとって、様々なことに挑戦させてくれて、沢山の思い出が詰まった母校が無くなってしまふことは、悲しくて仕方ありません。しかし、学校という形は無くても、「歴史」そして「思い出」は残ります。私は、その歴史や思い出を大切にしていきたいと思います。「鹿児島西高等学校へ お疲れ様でした。有難うございました。」



## 西高校購買部の思い出

「ひたちや」店主 小坂元 巖

いよいよ西高校とのお別れが間近となり、何ともさみしい毎日を過ごしております。あのにぎやかな登下校の様、体育館での元気そうな掛け声等が聞こえなくなり、久しくなります。

私どもがこの西高校前にて商いを始めた時は、未だ学校の姿形もなく草原で、小鳥や犬ねこの遊び場だったと思います。小生もその頃勤めをやめ、家電販売と文具玩具のお店を開店、細々と楽しくやっておりました。その後、西高校定時制、鶴丸夜間部、NHK学園と次々と開校され、にぎやかな学校となり、通りとなってまいりました。

そのうちに学校から購買部をやらなにかとのお誘いを戴き、嬉しくお受け致しました。

当時売店はパンと牛乳、ノート等の販売とささやかなものでした。その頃学校から定時制の子どもさんを引き受けてくれとのことで、働いてもらうことになり、2番目と3番目の生徒さんが長く勤めてくれました。たしか十有余年もいてくれたと思います。二人ともここから結婚へと巣立ってくれ、お幸せな家庭を築かれています。そして今でも遊びに来てくれ、当時を偲んでおります。

生徒数も多くなり、売店も、パンだけでなくお弁当をとのことで外に発注して販売していましたが、そのお店の廃業により自社で作成販売するようになりました。どうしたらおいしく喜んでもらえるかと、日夜考え一生懸命頑張りました。もうあのような嬉しい楽しい日々は来ないのだと思うだけでも悲しくなります。

ましてやあの、おじちゃん、おばちゃんと言ってくれていた生徒さん方ともお別れだと想うとますますさみしく泣きたい想いです。卒業されても、また遊びにおいでください。これが私どもの元気の源となっております。

西高校生よ永遠に！ 何時までも！ 西高校！ バンザイ

本当に長いこと有り難うございました。





## 閉校によせて

### 教師としての思い出

商業科／全日制／昭和51年～昭和55年,平成21年～平成23年在職 穴田 秀忠

教員の振り出しは鹿児島西高校昼間定時制の非常勤職員に始まる。生徒は12時まで授業を受け、13時から職場で仕事に就く毎日であった。大人と接しているのも物事の理解力は優れていた。また、素直な生徒が多かった。非常勤ではあったが、毎日17時まで学校にいた。



そして翌年西高校に全日制が創設され、新規採用職員として勤務することになった。新設校として生徒も職員も校風づくりに一生懸命であった。入学試験は当時体育館で実施され相当の競争率であった。当時から男子生徒は多いほうではなかった。新設校であるがために、まず西高校を認知してもらうために企業に対してPRすることが重要課題であった。また、校内は全日制とともに定時制、通信制もあり職員が混在していた。当時は独身であったので、3課程合同のいわゆる独身会に所属しており、勉強も遊びも一生懸命であった。職員室に和文タイプを置き、朝早く登校して練習していた。生徒総会も積極的な姿勢で参加する生徒が多く、要望等の実演までしてとてもにぎやかで、職員もたじたじであった。授業もよく質問を受け充実した毎日であった。部活動は、カナタイプ部を受け持ち4年が過ぎ転勤となった。この5年間でやはり諸先生から、また生徒から、人間の在り方を学んだことが大きな収穫であったように思う。

その後西高校に所用のため訪れた時、先生に総合実践室に案内され、そこで授業中の生徒に自己紹介をした記憶がある。そして29年後再度西高校に勤務することになり、とても懐かしい気持ちで校門をくぐった。校舎も変わらず、靴のまま授業を受けるのも変わらず、そして素直な生徒も以前と変わらずタイムスリップした気分であった。ただ制服が新しくなっていたことが大きな変化であった。保護者に当時の生徒も数人おり、時代の変遷を感じる。西高校に始まり西高校で終わる教員人生にほんとうに感謝したい。6校勤務したうち、4校がなくなるといふ寂しさもあるが、いままでのいろいろな思い出を胸にしまい、これからまだまだの人生である気持ちでやっていきたいと思う。

### 思い出

数学科／定時制夜間／昭和60年～平成14年在職 森永 敏弘

昭和60年鹿児島西高校定時制に赴任した年の普通科は、募集定員40人に対して26人の志願者であった。働きながら、夜間4年間、週6日登校するのは厳しい。もっと志願者が学び易くするにはどうすればよいか、職員会議でいろいろ検討して、1週間のうち4日（月火木金）登校し、2日（水土）は課題集による自宅学習（後日レポートを提出し、添削と面接指導を受ける）をすることによって、全日制普通科と同じ教科・科目を履修させる制度を昭和63年度から実施した。その結果63年度には101人の志願者が集まり、その後も50人を下回ることはなかった。



昭和48年に鹿児島市医師会准看護婦学校と技能連携し、夜間に併置された衛生看護科は、1・2年生は週3日（月水金）本校で、他の日は看護学校で学習し、3・4年生は週4日（月火木金）本校で学習した。

平成12年度に、両学科共に募集停止になる。美味しい学校給食、文化祭、桜島の降灰を全員で除去し万国旗を飾って行った運動会、平成6年韓国への海外修学旅行、卓球・バレー部が全国大会に出場し、東京同窓会の方々に物心両面の激励を頂いたのが先日のように思い出される。





## 西高校 8年間の変遷

家庭科／全日制／平成2年～平成10年在職 園田 節子

平成2年から平成10年3月まで、8年間楽しい教員生活を過ごさせてもらいました。

定時制高校としてスタートした学校ですから、平成2年度は、定時制昼間課程の衛生看護科4年生がまだ在籍していました。平常は病院で看護婦見習として働き、年に数回、集中的に学校の授業を受けに来ていました。生徒たちは嬉しそうに授業に参加し、どんどん知識を吸収し考えを深めていくようでした。

そのころ体育の授業では、工業高校のプールを借りて水泳実習がありました。各学年毎に午前と午後に分かれ、水着のまま校庭を横切ったものです。弓道場横にあったプールは今はテニスコートになっています。

平成5年は、8.6の大洪水があった年です。学校は幸い水害を逃れましたが、たくさんの生徒達が被害を受けました。3年生の担任をしていた私は、生徒の安否の確認と避難所巡りに奔走しました。その日は土曜日で、月曜日から就職希望者の校内選考会が予定通り行われました。混乱の中でも生徒達は意欲的に臨み、本番の就職試験でも十分に実力を発揮して、いい結果を出してくれました。このころから、2年生のキャンプが国内修学旅行に変わり、さらに海外への修学旅行になりました。中国旅行における現地高校生との交流は、大きな刺激になったようです。平成6年度から、単一の商業科の中にコース制が導入されました。6クラスが希望職種別に三つのコースに分かれたのです。家庭科の教室は、4階の端っこです。文化祭では、カレーやうどんを大混雑の調理室で作り、食堂となった被服室まで必死に運びました。生徒達は、ステージ発表とかけもちでよく頑張りました。

西高校はなくなりますが、学んだことや育んだ友情は永遠です。西高卒業生に幸あれ！



## 県立鹿児島西高校にお世話になって

商業科／全日制／平成8年～平成18年在職 惣田 征郎

鹿児島西高校全日制に勤務したのは、平成8年4月1日から再任用2年間を含め、平成18年3月31日までの10年間でした。赴任した当初は1学年6クラス計18クラスでした。

学校行事の一つとして、海外修学旅行が行われ、その全盛期でした。当時の中国を見聞し、現地校との国際交流を深めたことを考えれば多大な意義があったと思います。その後英語圏内のシンガポール、マレーシアと訪問の国を変更しましたが、生徒にとって貴重な体験だったと思います。

平成12年から退職するまで進路指導を担当しましたが、当時の卒業生の進路は平均して就職75～80%（県内希望95%・県外希望5%）、進学20～25%でした。進学を希望する生徒はほとんど目的を達成することが出来ました。しかし、就職を希望する生徒にとって、特に12・13年度は長引く不況で高校生を取り巻く経済環境の厳しい中、県外希望者は全員就職出来ましたが、特に県内希望者には冬の時代でした。高校生の就職希望者にとっては超氷河期となり、新聞も大きくカラーで掲載したり、テレビ各社の報道も多くなりました。

振り返れば思い出は尽きません。県立鹿児島西高等学校が閉校になるのは、断腸の思いです。

